



学校だより 11月号

～豊かで調和のとれた子の育成～

たくましく生きる人 なかよく生きる人

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tana/>



みのたなくん

『豊かで調和のとれた子』の育成をめざして

副校長 井上 和浩

緊急事態宣言が解除され少しずつ子どもたちの活動が広がってきています。10月の活動例をいくつか挙げますと、1年から6年までの異学年による縦割の集会が開かれました。地区校外委員の方にも来ていただき登下校の安全や様子について話し合う登校班指導も開きました。朝会も今までテレビ放送でしたが10月25日は校庭でおこない、全校児童が久しぶりに一堂に会しました。トランペット・鼓笛隊の朝練習も再開されました。2年生はズーラシア遠足、4年生は愛川校外学習に出かけました。

5年生は秋晴れの中、10月13日に土志田 康浩さんのご指導のもと、脱穀をおこないました。脱穀用のハーベスターと千歯こきを用意してもらい、おそらくほとんどの児童が生まれて初めての体験をしました。



本校3Fみのたな博物館に
展示されている千歯こきの歯

クラスごとに分かれ、それぞれローテーションをして作業を進めました。子どもたちは稲わらを土志田さんに手渡し、それを土志田さんがハーベスターにかけます。全長1mほどのベルトコンベアーに乗せられてみるみるうちに粃(もみ)と稲わらに分けられていきます。一方、千歯こきは当たり前ですが児童による手作業です。うまく櫛(くし)の歯の鉄片に穂をひっかかないと粃が落ちません。うまくできたと思っても穂に粃が残っていることがあるので何度か繰り返し、1粒も残さないようしごき落とします。

子どもたちは、

「大変だったけど、楽しかった。」

「粃がぼろぼろ落ちるのが気持ちよかった。」

などと感想を口にしていました。

わたしも、米づくりが盛んな地方で生まれましたので、秋の脱穀の様子は覚えています。作業所で機械によってされていました。横になった煙突のように壁からビニールの筒が地面と平行に伸ばされ、そこから藁(わら)くずが勢いよく出されていました。藁くずが空中に舞って光の具合によってはダイヤモンドダストのようにキラキラと光っていました。

児童が今回の稲作体験で目にした光景、喜びや苦労は一生心に残ることと思います。稲の感触や香りをはじめ、地域の方、友達や教師と一緒にこなした作業や交わした会話などどれもその時でしか味わえないかけがえのないものです。

また、前述した千歯こきの経験で感じた手応えやかかる手間など実際に経験して初めて分かったことや気づきがたくさんあったはずです。

そして、そこから生まれた多くの発見や学びは学習を継続していく大きな原動力につながります。

田奈小学校ではこれからも見たり、聞いたり、体を動かしたりする場をもち続け、児童のよりよい成長につなげていきたいと考えています。そして、『豊かで調和のとれた子』の育成を図っていきます。

11月20日(土)の「田奈のみり」では、すでに保護者にお知らせしている通り餅つきはせず、3グループに分かれて授業参観を実施します。ぜひ足を運んでお子さんの様子をご覧くださいと思います。

新型コロナの影響により延期されていたことができるようになり、再び学校に活気が出てきました。何より子どもたちの表情から伝わってきます。

引き続き学校では新型コロナによる感染症の拡大防止に努め、教育活動をおこなって参りますのでご理解などご協力をどうぞよろしくお願いいたします。